

### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5520m付近のトラフに対応して日本の東を低気圧が東北東進。低気圧近傍では気圧の傾きが大きくなっており、やや強い風が吹いて波が高くなっている所がある。
- ② 朝鮮半島付近を東進する高気圧の南縁にあたる南西諸島付近では、地上の気圧の谷となっており、1時間におよそ10mmの雨量を解析。
- ③ 沿海州付近を東進する低気圧周辺では、対流雲が発達しており、北海道地方で3時間10cm前後の降雪を観測。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、9日夜には前線を伴い、発達しながら日本の東を東北東進し、10日は日本のはるか東へ進む。低気圧周辺にあたる東日本太平洋側では、10日にかけて強い風が吹き、カムチャツカの東の低気圧からのうねりの影響も加わり波が高くなる所がある。強風や高波に注意。
- ② 1項②の地上の気圧の谷は、10日にかけて次第に不明瞭になる。一方、1項②の高気圧は、9日夜には日本海西部へ東進し、10日は東日本に進む。高気圧の南縁を回る吹走距離・吹続時間の長い、やや強い風の影響で、南西諸島では11日にかけて、やや強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなる所がある。高波に注意。
- ③ 1項③の低気圧は、9日夜にかけてオホーツク海を東進、10日は千島近海へ進み、不明瞭となる。また、500hPa 5340m付近のトラフに対応する低気圧が10日夜にアムール川中流域に進み、11日にはサハリン付近へ進む。千島近海に進む低気圧や、サハリン付近に進む低気圧の影響で、北日本では、9日と11日は大気の状態が不安定となる所があり、11日にかけて気圧の傾きが大きくなって、強い風が吹き、波が高くなる所がある。落雷、突風、降ひょう、強風や風雪、高波に注意。
- ④ 500hPa 5760m付近の正渦度極大域に対応して、10日夜までに東シナ海で低気圧が発生、11日にかけて西日本太平洋側へ進む。低気圧に向かって850hPa  $\theta$  e318K以上の下層暖湿気が流入し、南西諸島や西日本太平洋側では11日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量 (18時からの24時間) : 多い所(100mm以上)はない。② 降雪量 (18時からの24時間) : 多い所 (注意報級以上) はない。③ 波浪 (明日まで) : 北海道・関東・伊豆諸島3m。

### 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。